

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590200115		
法人名	有限会社SKY-Tカンパニー		
事業所名	グループホームつぼみ		
所在地	彦根市鳥居本町1455-7		
自己評価作成日	平成26年6月20日	評価結果市町村受理日	平成26年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成26年7月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様または家族様の気持ちを教えていただき 生活しやすい環境作りを目指しています。またご利用者様同士も仲良く 穏やかに過ごしておられます。食事は三食手作りで 季節感を感じていただき温かい物を提供させていただいています。主治医との連絡が取れやすく 何かにつけ相談をさせていただいています。理念でもある「家庭的な雰囲気」を大切に和気あいあいに過ごしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中山道、鳥居本宿の新興住宅街の一角に小学校、中学校と近接して当事業所がある。「尊厳を保ち、その人らしさを大切に支援し、日々安心して心おだやかに生活出来、生きる希望と…、ご家族や地域との連携を図る。」を理念に掲げている。事業所は、家庭的雰囲気の中で、少しでも家族の負担を軽くするため、家族との関係を築き、かけがえのない1人の人として尊重しながら自立への手伝いに努めている。夏祭り等イベントや行事を開催する事で、利用者や家族との交流を一層深めている。運営推進会議は交番の警察官が構成員として、意見具申や啓発を行う一方、事業所との連携にも役立っている。利用者の中には夫婦での入居者もいる。利用者は歩行訓練をしたり、ボランティアの訪問を楽しみ、時に職員との腕相撲を楽しみ、元教諭の利用者に書道を習ったり、穏やかに日々過ごしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすいところに貼られており、毎日見ている。仕事に入る前は理念を思い心がけている	理念を「地域の中で家庭に居るような雰囲気を感じながら、楽しく心安らぐ生活が送れるよう、尊敬の念をもってケアの提供に努める」と展開し、職員は日々のケアをミーティング等で振り返りながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りを行い地域の参加をお願いしている。天気の良い日など散歩へ出た時、挨拶をしたり交流している	自治会への加入は未だ受け入れられていないが、事業所の夏祭りはフランクフルト等の模擬店を開き、ビンゴゲーム等、子供会にも案内し大勢の参加を得て交流を図っている。近くの小学校との交流が定着してきた。	事業所が地域から孤立する事無く、地域の一員として事業所の力を活かした地域貢献を模索、実行し交流が密になる事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動に利用者さんと参加し地域の方々に触れ合うことで認知症の人の理解をしていただけるように心掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、民生委員さん、交番の警察官が参加くださり、8月からは家族さんが出席してください。夏祭りにどうすれば人が集まるかなど積極的な意見が聞かれる	会議は、交番の警察官等の参加で2ヶ月毎に開催している。事業所の取り組みの報告や地域との交流、防犯等の課題について協議している。職員は議事録で内容を共有している。行政の欠席が一回あった。	行政に会議への出席を要請し、皆出席である事を要望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	訪問、または電話連絡により、少しでも疑問があれば問い合わせ、協力関係ができるように心掛けている	市担当課とは日常的に運営者等が訪問し報告、連絡、相談を怠らず連携している。人事異動があった際には挨拶に出向いている。	市町担当課に運営推進会議の議事録等を持参し、コメントを貰う等して協力関係を強固に築けるよう期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。また、日中は施錠を一切行っていない。	虐待防止マニュアル・身体拘束ゼロの手引を活用して、内部研修を行ない共有を図っている。職員のスピーチロックを含む、言葉による拘束も都度、ミーティングで話し合い意識し合っている。利用者の外出行動の予兆を把握し見守りと行動を一緒にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何かあれば職員間で話し合い虐待はあってはならないことを周知徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人制度を利用されている方がおられ、理解できている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、本人や家族様の気持ちをお聞きし疑問に思われるところは説明し納得していただいている。また解約時は 家族様に不安の無いように相談させていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会に来られた時、現在の状況など報告し、家族様の思いなど聞いている。	家族の来訪時こそ意見要望を聞くチャンスと捉え、必ず職員が対応に当たり傾聴に努めている。家族の要望でおむつの購入方法を変更し喜ばれた。利用者の様子を家族にお便りにし、返信を貰う準備をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも話しやすい環境であるように心掛けている。問題があれば職員会議を行い職員の意見を聞き 看護師やケアマネを交え意見を聞いている	管理者は職員と同じシフトに就き、日常的に意見や提案を言い易い雰囲気作りをし、会議でも皆が発言出来る様配慮している。運営者が定期的に個人面談を行い、意見や意向を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの意見を聞く時間を設けることにより仕事への思いや考えを聞き、施設運営の向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には個々に必要とされる内容に参加させている。職員の技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬のグループホームで構成する「いっぺん集まってみよう会」というものが2か月に一回あり、研修など行い参加している。前回はホテルで利用者さんと一緒に食事をした		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様家族様にお会いし現在までの生活や今後の課題など不安に思っておられる事を傾聴し、また見学に来ていただいたり、安心していただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや見学に来られた際、ゆっくりと時間をかけ家族様の思いを聞き施設についても納得していただけるように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人家族の希望をできるだけ受け入れ、ご本人が居心地のよい環境について考え、家族と相談しながら、ケアプランを作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来る事はしていただき、人生の先輩として教えていただける事は教えていただき良い環境の下生活できるように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば状況の報告を常に行い、家族との連絡を密にとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人への電話や手紙のやり取り、また、訪問など時間の許す限り十分に行われている。	利用者の教え子等、知人の来訪時は居室でゆっくりと話が出来るよう配慮したり、馴染みの店や墓参り等、出掛ける為の日程調整や身支度等の支援を行っている。電話や手紙のやりとり等のつなぎ役として支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席などその日の利用者の状況により配慮している。職員が間に入り良い環境が保てるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に行かれた方などは 時々面会に行っている。また家族さんにはいつでも相談に来てくださいと伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に希望、意向を把握し職員同士で話し合いを行い、できる限り希望に添えるように努力している。	入浴や食事時、夜勤時の会話から、利用者の本音や意向等把握し、希望が活かせるようにケアの経過表や申し送りノートに記録し共有し実践に繋げている。日頃の利用者の仕草、表情、言葉の歯切れ具合なども意向の把握に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様がわかる範囲で利用者様の年代別生活がわかるよう用紙に記入していただき、理解できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定を行い健康状態を観察している。また経過表に変化を書きとめ、職員みんなで共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い状態を把握し、ご本人や家族様にあった介護計画を作成している	利用者等の意向やアセスメントを基に介護計画を作成し、本人の意向に沿っているか、カンファレンスやモニタリングを実施し、状態に変化が無くても3ヶ月毎に計画の見直しを行い、家族に説明し承認の記名を得ている。	介護計画書の家族承認欄の捺印個所に押印を得る事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に支援経過の記録を行っている。また申し送りノートを活用し 内容は職員全員が活用できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の散髪は、地域の美容院にお願いし出張していただいている。また 利用者様の季節の洋服など家族がいられない場合は同行し一緒に買い物している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方に情報をいただき 地域の文化祭など参加出来る事はしていきたいと思う。小学校の運動会など招待していただき 利用者様も楽しんでおられた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望と了解の下、定期的に往診にて対応している。また、整形外科、歯科など必要に応じ家族とかかりつけ医に相談しながら受診されている	利用者、家族の希望に応じ全員が従来のかかりつけ医を協力医に切り替えた。基本的に2週間毎に往診を受けている。通院受診は家族が同行しているが、緊急時等必要に応じて職員が同行する事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは情報 気づきを相談、共有し適切な対応を行えるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供は行っている。入院中も様子を見に行っている。退院時には、ご本人の変化や今後の対応について情報をいただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、家族の意向をできる限り添えるように努力している。終末期については 書面にてご家族様の意思表示をいただいている。年間教育計画に看取り介護についてを組入れている。	重度化や終末期の対応指針書を作成し、利用契約時に説明し同意書を交わしている。終末期対応の段階で、「終末期対応の合意と意思表示」、「看取り介護に関する同意書」の双方を家族と交わしケアに努めている。1名の看取り経験がある。	全ての職員が方針に基づく対応が出来るよう、職員の教育や心構え等、事業所としての支援体制の確立を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に話し合い、看護師に相談している。緊急時は施設長が常に待機し対応できるようになっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルやスプリンクラーを備えている。定期的に消防訓練は行っている。	避難、誘導訓練、消火訓練は消防署の指導の下で年1回実施した。地域住民の参加や協力体制はまだ整っていない。地区避難指定場所への避難について自治会の受け入れ態勢は出来ている。	訓練は運営規定に記載している年2回(内1回は夜間を想定)、近隣住民の協力参加を得て実施する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にもあるように利用者様に尊敬の気持ちを持って接している。失禁などされた場合でもそれとなく周囲に気づかれないよう対応している	接遇マナーについての研修への参加や、会議の中でも全職員が周知するよう話し合っている。特に利用者様に尊敬の態度を持って自尊心を傷つける事のない、声掛けをする等、常にケアの基本を意識し努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝、「まだ寝ていたい」など言われ起床の時間は本人に任せている。また おやつの際は 何が飲みたいかメニューの中から選んでいただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間 入浴時間等ある程度本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に女性の方は ご自分で服を選ばれる。できない方は これでいいですか？と尋ねている。男性は髭が伸びていないか常に様子を確認し、本人に伝えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の体調や気分を見ながら、食器洗いや調理、盛り付けを手伝っていただいている。大根おろしは男性ががんばってくださる。花見等外出時は、弁当やレストランを利用するなど気分転換を図っている。	食事のメニューは、利用者の希望も取り入れている。台所で調理の匂いに話題が弾み、皆で楽しみにしている。一汁三菜に拘り、旬の料理や行事食を適宜、メニューに組み入れている。職員も一緒に同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については毎日記録している。食事が少ないときは代替え品を用意し、水分については、できるだけ飲んでいただくようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けを行い、そうでない方は手助けしている。就寝前は義歯を外し、洗浄剤につける。歯の状態の悪い方は、歯科受診をされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の様子を記録することでご本人の排泄パターンがわかる。それにより 声掛けまたは 介助を行っている	排泄記録からパターンを把握し、トイレでの排泄に向け声掛けや誘導に努めている。体調により夜間のみポータブルで対応をする事もある。入居時、車椅子利用者が筋力トレーニングに励み、自力歩行で排泄の自立に繋がった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操などできる方はしていただいている。また 水分補給や排便を促すお茶など飲んでいただき 予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応は決まっているが 本人の希望により入浴されている。個浴で一人ひとりゆっくり入られている。	入浴は隔日に、14時～17時頃までの間で希望に合わせて行っている。毎日入浴する利用者もいる。希望により夜間入浴にも対応している。入浴剤を利用し色や香りを楽しみながらゆっくり入って貰える様配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの習慣や体調に合わせて休んでおられる。また、天気の良い日は布団を干し、気持ち良くして休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師だけでなく職員も二重チェックを行い、薬の作用や副作用を知ることができる。また、薬が追加や変更になった場合は申し送りを行い様子観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単なレクや家事を手伝ってくださり「助かりましたありがとうございます」と伝えると喜んでくださる。外部からボランティアを呼んだり、季節により行事を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により外出している。また 施設の買物がある時は 順番に同行していただいている	日常的には近くを散歩したり、畑、花壇の世話や買い物同行支援をしている。宿場祭りや彦根城まつり、紅葉狩り、盆梅展、初詣等、年数回、全員揃っての外出もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額に関しては自己管理されている方がいる。必要に応じ買い物ができるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通りに行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り家庭の雰囲気を保ちながら生活していただけるように工夫している	リビングは明るく観葉植物を置き、季節毎の利用者の貼り絵作品や催し時の写真を飾っている。床面に歩行訓練用にラインを引きトレーニングに勤しんでいる。掃除を常に行い、清潔保持に努めている。ソファの配置も利用者の動線を考慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ好きな場所でゆっくりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と話し合い使い慣れた物を持参していただいている。壁にポスターなど貼っておられる方もいる	居室はエアコン、照明以外は全て利用者が長年馴染んだ身の回り品を持ち込み、各々家族と相談しながら暮らしやすいよう配置している。家族の写真を飾ったり、その人らしく落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわかるように表札をつけている。また、トイレにはトイレのマークがついていて、各部屋からわかりやすい位置になっている。各部屋に洗面台があり整容ができる。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	運営規定に記載している避難訓練が年1回しか行えていなかった。	年2回は確実に訓練を行う。内1回は夜間を想定に行いたい。また近隣住民の参加を得て実施していきたい	平成26年9月に行う予定である。AEDがあるのでそれを活用し救急の対応にプラスし、避難訓練を行う。また、近隣にも声を掛け、参加を促す	1ヶ月
2	33	看取りを経験した職員は居るが、現在、全ての職員に方針が共有できていない	全ての職員が方針に基づく対応が出来るようにケアの統一し、チームとして支援していく。	かかりつけ医や看護師から指導を受けながら、社外研修に出来るだけ参加し、参加した職員は社内研修として勉強した事を全職員に伝える。	12ヶ月
3	5	問題や疑問があれば 訪問や連絡はしている	協力関係をよりいっそう築く	運営推進会議の議事録を持参し コメントを貰う。	12ヶ月
4	26	介護計画書の家族承認欄の捺印箇所に押印がない箇所が一部あった	介護計画書には必ず記名捺印を得る	遠方の家族には計画書を郵送し 再度事業所に送り返して頂く	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。